

## アマダイ通信NO. 54

(Tile fish network letter)

06年藤の花咲く

### 知人・友人各位

毎週行くぞ！と意気込んだ日帰りスキーも仲間とのスケジュールが上手にかみあわなかったり、大雪で高速が閉鎖されたり、車のバッテリーが上がっていたりで今シーズンは8回ほど。東京では桜の花も散り、スキーシーズンもほぼ終わりました。桜はこれからという地方もごさいます、皆様、春を満喫できていますでしょうか？

### ◎CTスッポカすも卒業試験合格！抗がん剤卒業！

西武新宿線の車窓から🐟の目を楽しませてくれる小平の遊歩道、関公園、中野通りの桜は今年も綺麗でした。まさかステージⅢbの大腸がんで死の淵にあるとは思っても寄らず、アメリカのイラク攻撃のスペクトルショーにも食傷、傷口も完全に塞がらぬまま病院を抜け出し、多少の感慨を覚えながらノンアルコールビールを飲み、新宿御苑や本郷の三四郎池の桜を見てから、四度目の花見ができました。ノンアルコールビールにも微量のアルコールが入っていることを知って反省したのは昔、今年は大好きなサッポロ黒ラベルを手に入れた新宿御苑で、飯田橋の土手では団塊ネットの世話人連と夜桜見物ができました。賞でる花があり、愛でる友がいて、酒があり、話弾む春が、来年も来て欲しいものです。

四半期後の四月の診察の前に、肺と腹部のCTを撮って異常がなければ、無事三年経過ということだから抗がん剤を止めましょう。そう言われて肺と腹部のCTスキャンの予約を入れて貰ったのに、腹部のCTの予約を忘れてすっぽかす。検査を忘れるほど体調がいいんだと言い訳しながら、頭掻き掻き主治医の三楽病院の阿川先生の診察を受け直し、腹部CTを再予約。検査の結果は肺は全く異常なし、腹部も脂肪肝除き異常なしとの看立てで、抗がん剤から解放される。

お蔭様で能天気ここまで来たけど、ステージⅢbの大腸がんで、危なかったんですね、と🐟。リンパ節はそれ以上取ると大腸、小腸が腐る限界の9個まで取り、そのうち癌が転移していた三個はビー玉大に腫れていたんです、その先の血管の中まではわからないけど、と親指とひとさし指で○を作る阿川先生。「大腸癌ステージⅢb、殆んど治癒する見込み無し」（岩波新書「胃がんと大腸がん」）からの生還だったんですね、と🐟。先生のコメントはない。リンパ節が一つ、又、一つと癌に侵され、癌と闘って、際どいところで、命を守ってくれたんだ。🐟が突っ込む。奇跡的にここまで来れたのは手術で癌細胞を取り切れたからなんですか？それとも抗がん剤が効いたか、免疫力が強かったからでしょうか？手術と抗がん剤と免疫力の総合の賜でしょう、笑ってられるのがいいんですよ、と先生。三年で抗癌剤から解放されても、完治と言われるまで後2年。天から貰った余生を、少しは大事に、楽しく、有意義に使いたいものです。

### ◎患者を生きる・・・癌と闘うのか？共生するのか？

折から元NHKアナウンサー、エッセイストで末期癌患者の絵門ゆう子さんが亡くなる。朝日新聞東京版に週一回連載される闘病エッセイを、同じ癌患者として毎回興味深く読む。

享年49歳、訃報を聞いて、やはり亡くなったんだというより、ここまで生きれるんだということに感動を覚える。2000年に乳癌の全身転移が発見されここまで生きたのだから、大腸という局所にしか癌のみつかっていない<sup>●</sup>はまだまだ死ねそうにない。ほんの2、30年前は不治の病と言われ、患者への癌の告知をすべきか否か、論争が続いたくらいだから、生きている間に治療法ももっと進歩するだろう。都合よく積極面を評価するが、無事3年を経て、いざ抗がん剤から解放されるとなると、ここまで来れたという安堵感と共に、薬を飲まなくても大丈夫だろうかとか多少の不安も覚える。3月の上田埼玉県知事を迎えての団塊ネット（団塊の世代政策研究ネットワーク）の新春の集いで、久しぶりに会った編集者の小野典子さんが、タイミングよく「間違いだらけの抗がん剤治療一極少量の抗がん剤と免疫力で長生きできる！」（KKベストセラーズ、ベスト新書）を贈ってくれる。

一個のガン細胞は三〇回ほど分裂を繰り返すと約10億個にまで増大、ガンのカタマリ（シコリ）は、大きさが一立方センチメートル（一センチメートル四方）の大きさになる。一方、現在の画像診断では、どんなに精度の高い機械でもその百分の一の大きさ、1000万個になれば検出できない。CTスキャンでは画面に現れない<sup>●</sup>の癌細胞も、身体はどこかで息を潜めて次の機会を窺っている可能性大だ。だから手術で患部を除去した後も1週間づつ5回入院して、抗がん剤の集中点滴治療を受けた。術後だけでなく術前に患部を小さくするために、或いは癌が進行していたり、広範囲に転移が進んで手術できないような場合にも、放射線治療と共に抗がん剤が投与されることがある。だが元々化学兵器として開発された抗癌剤もあり、多くの奇形児を産んだサリドマイドも抗がん剤として使われることからわかるように、強力な毒性を持つ。<sup>●</sup>の場合は副作用らしい副作用もなかったが、通常は正常な細胞も痛めつけ、体力を弱める。本書の著者の癌の専門医は「四週間の間ガンは小さくなってたけれど、抗がん剤で痛めつけられた患者さんの身体の中で、治療後急激にガンが成長し、患者さんは一週間で死んでしま」うこともある、それでも抗がん剤は「奏効した」とされるが、一時的に癌が縮小しても副作用で体力を落とし、結果的に何も治療しない場合と延命効果が大きく変わらないのでは意味がない。いや日常生活から隔離された病院で、副作用で苦しめられながら亡くなるなら、その様な先達の犠牲の上に現在の癌療法の進歩があるとしても、その人の人生にとってはマイナスでしかないと言う。

そして「PS0（無症状で社会活動に制限なく、発病前と同等に振舞える）だった患者さんが、抗ガン剤治療を始めた途端にPS2（歩行や身の回りのことはできるが、時に少し介助がいる。軽労働はできないが、日中の50%以上は起居）、3（身の回りのある程度のことはできるが、しばしば介助がいり、日中の50%以上は就床）の状態に落ち込む。どの段階の患者さんでも、“標準的抗ガン剤治療”を受ければ、1～2ランク、全身状態は悪化してしまいます。一方、現在、PSが2より悪い3、4（身の回りのこともできず、常に介助がいり、終日就床）の患者さんでは、いわゆる標準的な抗ガン剤治療の適応から外されます。すなわち標準的な治療は行なわれず、治療を諦められている」とし、「使う抗ガン剤の量を少なくした場合、ガンに対抗する免疫力を削ぐことはなく、その健気な免疫細胞がガンに対しわずかでも抵抗し、少量の抗がん剤と協調して、ガンに対抗してくれる」。ごく少ない量では、免疫活性を向上させる薬剤」として「ブレオマイシン（商品名ブレオ）やサイクロフォスファミド（商品名エンドキサン）、パクリタキセル（商品名タキソール）をあげ、更にゲムシタピン（商品名ジェムザール）、ファイブエフユー（5-FU、商品名も同一）も可能性ありとする。

その上で、「ごく少量の抗ガン剤治療は、存在しているガンに対し、それを縮小させることは考えず、“増大させないこと”だけを期待し、出来るかぎり“現状を維持”することを最大の目標としますので、ガンがすでに巨大なために患者さんが生活の制限を大きく受けている場合は、その治療の意味が薄れます。そのような状態にあるガンに対しては、その増大を抑制しても、ガンにより苦しめられる時間を延ばすだけですから、その場合は不本意ですが少々多めに抗ガン剤を使い、悪さをしているガンの縮小を期待して治療します。うまくガンが縮小して、辛い自覚症状が取れれば、後は増大しないことだけを考えます。可能なかぎり長く治療を続けられる方法に切り替えます。そのようにして現在も診ている患者さんは何人もいます。イレッサという画期的な薬のおかげで、昔ならば、とっくに目を閉じているはずの肺ガン患者さんが、今も元気で生活しておられます。乳ガンに対するハーセプチンも同様です。新しい薬の開発がどんどん進んでいます。ガンマーナイフやサイバーナイフと呼ばれる特殊な放射線治療装置の進歩にも目をみはるものがあります。全身状態が悪くならず現状を維持してゆけば、画期的な治療法が出現しそれにめぐりあえる可能性も出てきます。患者さんの心理としては、髪の毛が抜けたり、吐き気に悩まされたり、何でも、“ハッキリと治療している”という実感があれば安心なのでしょうけれども、副作用と治療効果とは、全く関係ありません。むしろ同じ治療をしたのであれば、副作用が出ない患者さんの方が、治療効果は大きいように思います。」と結論づけます。

知り合いの編集者からいただいた「間違いだらけの抗がん剤治療一極少量の抗がん剤と免疫力で長生きできる！」(ベスト新書)を長く引用しました。抗がん剤の使い方、代替療法との組み合わせ、無理やり癌細胞をなくすのではなく患者を社会生活できる状態でできるだけ長生きさせるのが治療の目的だ、という主張には納得するところ大です。

### ◎錦城高校なんか無くなってしまえ！

20戸ほどの町内会「西武住宅自治会」の役員の順番が10年振りに回ってくる。首都東京の西の大幹線、新青梅街道の南側を平行して走る江戸(東京)街道と新小金井街道が交わる、錦城高校南の交差点脇の行き止まりの私道の片側に、新小金井街道を背にして住宅が並ぶ。14年前に建売住宅を買って小平に引っ越して来た時は、農家の大きな住宅や畑が広がっていた所に、片側1車線だが、一日の通行量上下6千台という道路が完成した。直ぐ南の地点で西武新宿線の下を潜る。その先のJR中央線も下を潜って30メートル道路(東八道路)と繋がり、甲州街道へ、北は清瀬から新座、朝霞へ到る。電柱は地下化され、広い歩道には花ミズキやツツジ、サツキが美しい。が、開かずの踏み切りの多いJR中央線、西武新宿線の地下を通して多摩を南北に貫き、神奈川と埼玉を結ぶ。通行量が多く、騒音が酷い。特にバイクのダバダババ・・・という音と大型車の走り抜ける轟音がすごい。

間もなく開通という段になり、私道の出入り口から交差点まで20メートルほどしかなく、出入りが難しいので、信号をつけるかして、スムーズに行くようにして欲しいということになる。前期の役員が小平警察署の交通係と交渉しても埒があかない、事故でも起きて、死人でも出なければ警察は動かないよ、という話になって年が明け、役員を引き継ぐ。取り合えず交通係では片がつかない、小平署長と会えないかということで、かつて警視庁総務部長を務めたことのある、東大三鷹寮同期の坂東自朗JR東日本監査役に、渡辺署長を紹介していただく。新旧役員4人で縷々事情を訴え、丁寧に話しを聞いていただき、対策を御願ひする。

あらためて警察と東京都で再検討してくれるが、信号や、消防署の前にあるようなゼブラ帯の設置などはできないということで、入り易くなるように出入り口の幅を5.4mから、7.2mに広げてもらう。

とりあえず新小金井街道は開通したが、錦城高校南の交差点から小平駅までの東京街道の恰幅計画も昔から手付かずで、片側にしか歩道がない。錦城高校は都内屈指のマンモス校だ。朝8時前後の通学時間には交差点から小平駅まで、歩いて15、6分の距離の歩道は高校生で埋まる。反対方向を自転車通勤で駅に向かおうとすると、歩道を走ることができない。狭い車道を走らざるを得ない。命がけだ。錦城高校なんか、無くなってしまえ！近隣の住民から怨嗟の声が出る。しかし、次代を担う、将来性ある高校生を恨むのは可哀そうだ。筋違いだ。通学路も緑に確保できないのに拡張を続けた学校も学校だが、いつまでも狭いまの道路を放置し、小平駅北口の区画整理もせず、駅前広場を作ってバスを走らせることすらできない行政の怠慢だ。

昨年市長が代わり、小平を西武線の駅ごとに七つの地区に分けて懇談会をひらき、街づくりマスタープランを再検討するというので、小平駅周辺地区の“こまち懇談会”なるものに出席する。十数人の出席者の中で何とがが一番若い！団塊世代の大量定年に伴う07年問題の一つとして、“地域へ還る”ということが言われるが、版地域参加の切り口として、小平の街づくりに関わるのも面白いかなと思う。

#### ◎ 渋滞のアクシデント・・・黄土高原だより (NO.340) より

高見 邦雄 (緑の地球ネットワーク事務局長)

北京から大同にくる時は夜汽車でしたが、大同事務所の小郭到北京まで車で送ってもらうことにしました。夕方から北京で約束がありますし、渋滞でもあったら困るから朝9時前に出発しました。最初は順調でした。前回までは高速道路の舗装の若返り工事があちこちであつたんですけど、今回はそれもなし。北京→大同の下り線は元々問題が少ないんです。でも、大同→北京の上り線は路面の傷みが激しく、しょっちゅう工事をしています。石炭を満載した大型トレーラーが通るからです。過積載の取り締まりが厳重になりましたが、車を止めますから、往々にしてそれが渋滞の原因になる。下り線を走る時はたいてい空荷です。河北省張家口市の宣化の料金所の係員から、官庁ダムの所で、高速の通行がストップしているので、地道を走るよう告げられました。石炭トラックが事故か故障だということですが、確かなことはわかりません。懐来のインターチェンジで高速をおり、北京に向かって国道110号線を走り始めたら、その料金所でも渋滞だから別の道をいくよう指示されました。

中国の地方では一般道でも料金を徴収されます。結構な頻度なので、その合計を考えたら地道のほうが、高速道より高くつく可能性もあります。官庁ダムの南側を回ることになりました。この道はダムに注ぐ直前の永定河を渡ります。もう少し上流で桑干河に洋河が合流し、そのあたりから永定河に名前が変わるようです。ダムの上を走りました。20t以上の車は通行禁止の表示がありますが、張家口→北京の路線バスもここに迂回してきています。さすがに石炭トラックはみません。もと走っていた高速道路の下をくぐったあたりから渋滞が始まり、最大5列ものトラックや乗用車が、上り下り入り乱れて道幅いっぱいふさいでいます。この様子を見れば日本人ならパニックにおちいるでしょう。そのすきまを器用にすりぬけて、小郭は車をすすめます。しかし、それも限度のある話。ついにまったく動かなくなりました。

Uターンしてわき道へいく乗用車があります。私たちもそれについていきました。2人乗りのバイクが私たちの車の横につけ、誘導してやるから少しお金をだせといいました。小郭は地図があるから大丈夫だと断りました。その後も数組の若い男たちが同じように寄ってきました。その先に村があり、入り口で道のまん中にバイクを停めて道をふさいでいます。

6、7人の男の子が私たちの車を取り囲みました。10歳代半ば、といったところでしょう。ここから先は私有地だから、通り抜けるなら金をだせといいます。小郭は運転席の窓を少しだけ開け、反論しています。やりとりの声が少しずつ大きくなります。子供から大人になりかけの年代ですから、あまり興奮させないほうがいい。そのあたりは小郭もわかっていて、適当にあしらいます。その子供たちは声は威圧的です。脅しとっていい。でも1人が運転席の窓ガラスをたたくと、別の1人が制止しました。この状態だと大事にはならないでしょう。小郭はいくらだ？とききました。50元（1元15円）と彼らはいいます。小郭は携帯電話をとりだして110番しましたが、何度やっても通じません。私はデジカメをとりだして彼らの写真を撮りました。背中を向けたり顔をそむけたりしますが、1人だけこちらに正面を向けて、ニコニコ笑いながらピースサインする子もいます。遊び感覚なのでしょう。結局20円で折り合いをつけ、そこを通りぬけました。ほんの1kmほど前に進むのに20元を要したわけです。小郭は、その後も何度も110番しました。しかし、通じません。自分の携帯電話で、私も試みてみましたが、呼び出し音になる前に切れてしまう。やっと通じて小郭が口を開く前に、女の声で多車か？と聞かれました。渋滞問題かということでしょう。そうだと答え、「それから路覇だ」といって、事情を話しましたが、警察はとりあいません。同様のことは続発しているのでしょう。その後も10分で抜けられる道を案内してやる、なんて男が声をかけてきましたから、おもしろい産業が現れたものです。

大同の純農村地帯ではこういう経験はありません。ちょっと考えにくい。問題の村は北京市の延慶県からすぐ近くです。延慶県のリゾートホテルは村からみえるくらい。その周囲には「平成日式度假村」（日本式の休暇村）の看板をかけた一戸建て別荘が、ならんでいたりします。こういう境目に、ストレスが貯まっているのかもしれない。

### ◎農村の私立小学校・・・黄土高原だより（NO.354）より

一昨年夏の朝早くのことです。なじみの霊丘県上北泉村を歩いていると、いつもの小学校のまえを素通りする数人の子供がいました。「どこに行くんだ？」ときくと、「学校！」といって、その先を指さします。農家のならぶ露地にベニヤ板がぶらさげられ、「霊泉小学」と書いてありました。なんだろうと思って中に入っていくと、民家のせまい土間に机と椅子がぎゅうぎゅう詰め。教室だったのです。奥の部屋では大慌てで朝食をかきこむ子供の姿がみられました。何枚かその写真を撮りました。少なくともこの村の子供たちのあいだでは、私は10年通った「有名人」ですから、すぐに連絡がいったのでしょう。女性の校長先生がでてきました。事情を話してくれます。

元々彼女はこの一帯の小学校で働いた先生で、上北泉村小学校の校長をしたこともあります。このたび定年退職したのを機に、自分で小学校を経営するのを思い立ったそう。私立小学校です。近隣の村のたいいの親たちは、彼女の教え子だそうです。近隣の村のたいいの学校の先生も、彼女の教え子か元同僚です。「自分の教育にたいする熱心さと手腕はみんな知っているから、子供をこの学校に送り込んでくれます」と彼女は、自信まんまんでした。

当の上北泉村のほか唐河のすぐ下流にある下北泉村、郷政府のある紅石楞村、少し離れた劉庄村、隣の河北省のいくつかの村からもきているのだそうです。離れた村の子供たちはここで寄宿しています。新しいできごとなんですけど、どちらかという時期尚早と、これまで冷ややかにみていました。昨年春の、ボランティア・ツアーもこの村でホームステイしました。その時、従来の公立学校とこの私立学校の両方の子供達が沢山の出し物を演じて、私達を熱烈歓迎してくれました。学校が2つになっただけでも、出し物の数は単純にふえます。私立の靈泉小学校は潰れるどころか、子供の数をぐんと、ふやしているようです。

靈丘県はこのところ景気がいい。太行山の中には沢山の地下資源があります。個々の規模は大きくなく、以前は採算にのらなかったようで、開発は進みませんでした。ところが近年の中国経済の大膨張。価格高騰だけでなく、鉄、セメントをはじめ、品物がなくなるところまでいったんです。一斉に開発が始まりました。そのあおりで水汚染はじめ、深刻な環境問題も発生しています。でもものごとはたいい2面性があります。靈丘は民営企業が急発展したのだそうです。その結果税収がふえる。おかげで靈丘県では昨年、小学校の学費は免除されたのだそう。でも、それは公立のこと。

今年の春のボランティアツアーも、上北泉村にホームステイしました。私は朝早く、私立小学校をのぞいてみました。驚いたことに、今では2階建ての新しい、立派な校舎が建っていました。生徒数も200人になっているそう。村に入るなり、ジャージーに「靈泉小学」と染め抜いた、この学校の制服がずいぶんと目立っていました。それに対して、公立学校の方は25人なのだそうです。完全に圧倒しています。あの女性校長に質問しました。すると、「1学期400元ですから、1年で800元。儲けようなんて考えていません。先生たちの給料ができればそれでいいのです」。寄宿者には、生活費がプラスされ2000元だそうです。800元（1元15円）といえば農村では大金です。しかも、公立だったら今は無料なのです。

★緑の地球ネットワーク・会員大募集！この緑化協力事業は会員の力で支えられています。

1人でも多くの方にご入会をお願いします。一般・年間12000円、学生3000円など。

★税制上の優遇措置をうける認定NPO法人です★認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク (GEN) 552-0012 大阪市港区市岡1-4-24 住宅情報ビル5F TEL.06-6576-6181 FAX.06-6576-6182 E-mail: [maigentree@s4.dion.ne.jp](mailto:maigentree@s4.dion.ne.jp) URL <http://homepage3.nifty.com/gentree/>

## ◎起債で三鷹寮の増築？そして、43LII9B

かつての東大三鷹寮の敷地の真ん中を東八道路が走り、北側半分は防災公園に、周りの畑も住宅や商店に姿を変え、わずかに残る銀杏並木と防火用水に昔を偲ぶことができるのですが、南半分に、3階建て6棟、世界中から集まった6百人の若い男女が起居する、寮の後身の東大三鷹国際学生宿舎があります。高層棟2棟を建て増して千人規模にし、併せて低層部分に共用スペースを設け、より快適な勉強空間を実現しようという構想が、建替え当初からありますが、延び延びになっています。

本郷に古田副学長を訪ねた時に、国立大学も独立行政法人になったので、起債して寮を建てるのも可能になったんだよね、とのこと。はやりのPFIでやることも可能な訳だ。ただ起債といい、PFIと言っても民間資金を利用して建てる訳だから、利息なり利潤なりを産む、営利事業となるが、学生の勉強環境を保障する福利厚生事業と考えると、どこで折り合いをつけることができるのか？そこが難しいようだ。

ただ学寮の運営は教育事業であり、留学生寮でもあれば、外交の一環でもある。憲法は教育を受ける権利を規定し、それには義務教育だけでなく。高等教育も含まれる。この間国立大学の授業料も随分上がり、塾だ予備校だとお金もかかって、親の資力で子の学歴が決まり、所得格差が固定化して行く、階級分化が進むのではと、危惧されている。かつての<sup>●</sup>のような貧しい田舎の若者が、望む大学で学ぶことができないとすれば、人材の供給源が狭まるということで、国家にとっても損失である。諸外国を旅すると、大学まで教育費が無償という国も多い。北欧は勿論、ドイツもスペインも、トルコなどもそうだったと記憶する。市場経済のグローバル化、国際競争力の強化が叫ばれ、その源泉がヒューマンパワーであり、人的競争力強化の鍵は教育にあることを思えば、教育環境向上の一助として、学寮に公的資金を投じることも必要である。最近三菱商事だったと思うが、若い社員のための寮を作り、その費用を福利厚生費ではなく、教育・研修費から出すというニュースを目にした。顔を突き合わせて議論し、お互いの向上を図る場として、教育の場として寮に投資することは効率的でもある。又、国際学生寮であれば、お互いの国際感覚を磨き、国際理解を進める場として、将来の外交にも寄与するであろう。

学生時代、古田副学長とは政治的立場を異にしたが、入学が2年遅い、昭和43年入学L I II 9 Bという彼のクラスには、熊本出身の浅利俊明君という、<sup>●</sup>と立場を同じくする優秀な活動家がいた関係で、当時からよく知っている。あのクラスは他に古田君と同僚の浜田副学長、厚労省の中村社会・援護局長、五味金融庁長官、国交省岩崎航空局長、上原沖縄県総務部長、香川知事に挑戦し続ける多田羅君など錚々たる人材を輩出している。疾風怒涛の時代、まさにあの43 L I II 9 Bという混沌たる坩堝の中で、切磋琢磨した成果とは言えないだろうか？星霜移れば、人も変わる。古田副学長には、是非中心になって東大三鷹国際学生宿舎の新棟建設・施設の充実に腕を奮って欲しい。三鷹寮OBとして、<sup>●</sup>も最大限協力したい。

### ◎留学生支援基金寄付御礼

05年度の東大留学生支援基金の 캄パを、三鷹クラブ、<sup>●</sup>通信読者の皆さんに呼び掛けたところ、4月18日現在で110名の方から81万4千円の寄付をいただいております。ありがとうございます。<sup>●</sup>も僅かですが、呼び掛け人として5万円寄付させていただきました。まだの方、忘れていた方は宜しく御願ひ致します。東京大学留学生支援基金（留学生課内、〒113-8654東京都文京区本郷7-3-1、Tel 03-5841-2372）に連絡すればパンフレット、振込用紙を送ってくれます。

### ◎「BSEと鳥インフルエンザ」・・・三鷹クラブ第66回定例懇談会のご案内

吉川泰弘君（東大大学院農学生命科学研究科教授）は昭和40（1965）年入寮、飯田高校出身です。飯田市は、長野県の最南端、伊那谷の中心で豊かな自然と景観、四季の変化に富み、多くの優れた文化人を輩出したことで知られています。そんなところから出てきた吉川君は、寮をこよなく愛し、外出することを成る可く節約して三鷹の四季や、歴史と伝統の残る寮生活を満喫していました。寒い季節は厚いどてらを纏って、人が集まって談論する場に出没していたように思います。

2年生の時に、吉川くんは昨年講演をした日本郵船社長率いる宮原委員会の売店委員を勤めました。夜中にやって来る寮生の便宜のために、夜22時までの売店管理が仕事でした。と言っても、暇な時は玄関の管理室の電話当番のお手伝いをしたり、スツティングと呼んでいたガリ切りや印刷などを良くやっていました。そのため無人となる売店から、商品をお代なしで持ち出す事件はなかったように思います。委員の人柄か、寮生の人柄かはともかく、よき時代だったように思います。私は文化委員をしており、ある時、寮生共通のものとなる歌集を作ろうとしました。予算が乏しく、ガリ版刷りの手作りながら、せめて寮生に愛着を持って貰おうと、表紙は厚手の色紙で、絵を描くことにしました。この時、売店委員吉川くんの文才（主に感性）と筆が大いに活躍しました。こんな三鷹時代の吉川くんは、信用できる、しかしいつ起きていつ寝るともしれない、一般の常識と違う斬新な論を展開する、怪しげな寮生だというのが、私の吉川観です。

昨年はBSE（狂牛病）問題、鳥インフルエンザ問題で大揺れに揺れた年でした。政治問題と化した米国からの牛肉輸入の是非を問うために設置された食品安全調査委員会の座長を務めて、マスコミに何度も顔を出しました。ゴマ白の吉川ひげはおなじみになりました。また、昔変わらぬしゃべり方は、誠実な感触を与えて、もはや寮時代の怪しさは窺えません。

BSE問題が喧しかった昨年、座長を務める吉川くんは、「科学的に絶対安全だと太鼓判を押し過ぎて欲しいという声が多いけれど、科学的にといえば絶対はないんだよな、確率としてこの程度の安全性があるとは提示できるけれど、目の前の牛肉が絶対安全かと問われても、その安全確率に消費者の判断を賭けるしかないだろうと思う」と、しみじみ言っていました。同様のことを、TVでの座長発言でもしていました。

今、またBSE問題は更に風雲急を告げて、吉川座長の発言も厳しさを増しています。加えて、鳥インフルエンザが、人類の将来を脅かしかねない勢いで拡大しています。地球規模の気候変動、化学物質の際限ない利用拡大、交通や情報の発達、そして人口の増大など、地球は全く今までとは別の環境に変質して行っているようです。そんな現在、そして未来に、ホモ・サピエンス時代のままの体で、変化する環境に適応し切れていない私たちはどう対応すべきか、このあたりのことを、厚生省筑波霊長類センター長でもあった獣医学病態動物医学科学講座実験動物学研究室担当の吉川教授に語って頂けるのではないかと思います。

（桜井尚武・森林総合研究所理事）

日時：平成18年5月18日（木）18時30分～21時 二次会あり

場所：学士会館本館203号室（千代田区神田錦町3-28 Tel 03-3292-5931）

会費：5000円（会場費、夕食代・ビール代、通信費など込み）

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

（有）ティエフネットワーク Email: [tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp](mailto:tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp)

## ◎最後に

貧しいけれど未来に希望を持って教育に情熱を注ぐ内陸中国と、北京に近く、法にふれてでも、どんなことをしても金を稼ごうとする沿海に近い中国。対照的な記事を高見邦雄「緑の地球ネットワーク」（GEN）事務局長の記事から転載しました。皆様どう思われましたでしょうか？中国理解の一助となればと思います。☘も世話人（理事）で応援するGENに皆様の応援を御願いたします。読了多謝！再見！